

# 令和 7 年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 8 年 1 月 29 日  
少友幼稚園 園長 吉野悦子

## 1. 本園の教育目標

キリスト教フレンド派の精神に基づいて教師と園児とその保護者との間の愛と信頼の中で「神と人に対する感謝の心を持つ人」「進んで社会に奉仕する人」「自主的に判断し強い意志と責任感を有する人」「個人の持てる能力を十分に発揮できる人」「協調性のある豊かな人格を有する人」を育成する。

## 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

広報活動の充実/誰でも通園/フレンドハウスの活用/保護者支援/園内研修

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	広報活動の充実	A	ホームページ YOUTUBE で園の様子がわかる動画を作成。募集定員の応募があつた。
2	誰でも通園	A	月に一回開催し入園につなげた。
3	フレンドハウスの活用	A	全体での礼拝を行い教職員のパネルシアターを開催。親子支援事業、子ども王国、地域還元(オカリナ)に活用することができた。
4	保護者支援	A	菅野先生と特性のある園児の保護者との会「環の会」がとても好評であった。 卒園児保護者の経験談を聞くことにより不安が和らいた。
5	園内研修	A	職員間のコミュニケーションをはかり、職員会議など定期的に行われた。

評価(A 十分に成果があった B 成果があった C 少し成果があった D 成果がなかった)

#### 4.総合的な評価結果.

評 価	理 由
A	今年度は入園募集定員数と同等の応募があり、広報活動と親子支援事業は十分に成果があった。そしてフレンドハウスの建設が広く受け入れられた

#### 5.今後取り組む課題

1	縦割り保育	コロナ期に感染防止の観点から横割りクラスに移行したが本来の「育ち合い」教育に戻すため来年度から縦割り保育を実施する。
2	福利厚生 (職場の風土作り)	女性が働き続けられる職場づくりをめざし当園で実施できることを探る。育休後の時短勤務体制や不妊治療を受けながら働き続けられるよう配慮する。
3	フレンドハウスの活用	おもちゃコンサルタントである秋山明穂先生を中心に「おもちゃの広場」を開催する。親子支援事業や保育、そして地域活性化につながることを目指す。

#### 6.学校関係者評価委員会の評価

本園は、ホームページや YouTube を通じ、日々の取り組みを分かりやすく発信する広報活動に力を入れており、園の特色や教育内容が地域および保護者に的確に伝えられている点を評価します。情報発信が行われていることで、園に対する信頼にもつながっています。また、月一回実施されている「誰でも通園」の取り組みは、地域に開かれた園づくりを体現する実践として意義深く、子育て家庭が安心して園と関われる貴重な機会となっています。親子支援事業においても、保護者の不安や悩みに寄り添いながら、子育てを支える姿勢が見られ、地域の子育て支援拠点としての役割を十分に果たしています。さらに、保護者支援の面では、卒園児保護者の協力も得ながら、保護者との信頼関係を丁寧に築いている点が評価できます。園と家庭が協力しながら子どもの育ちを支える体制が整えられつつあり、保護者が安心して子どもを預けられる環境が形成されています。職員間においても、日常的な情報共有や意見交換が行われており、チームとして園運営に取

り組む姿勢がうかがえます。こうした良好な職員間コミュニケーションは、保育の質の向上につながっているはずです。

今後は、これまでに築いてこられた取り組みや成果を大切にし、時代や地域、生活の変化を柔軟に捉え、支援の充実や新たな取り組みに、焦らず、ゆるやかに挑戦されることを期待します。本園が、子ども・保護者・地域にとって、より一層信頼され、愛される園として継続していくことを願っています。

学校関係者評価委員 川崎 賢一

今年度は重点的に取り組まれた目標・計画すべてに成果を上げることができたと伺い、あらためて先生方の多大なるご努力が結実した結果と深く感服いたしました。

広報活動の充実によって園の魅力を伝えることができ、月に一度開催する「誰でも通園」によって入園につなげることもできています。

フレンドハウスの活用も、園児全体での礼拝や、親子支援事業、地域還元事業など多岐にわたり活用できているようです。見学させていただいた際、木のぬくもりを感じることのできる空間で、子どもたちが元気いっぱい遊んでいる姿を容易に想像できました。大きな掃き出し窓から広がる園庭と、そこを自由に行き来できる環境は、子どもたちがのびのびと過ごすことができる場となり、季節ごとの光や風を感じながら自然とふれあう機会が増えることでしょう。

保護者支援としては、場の提供だけではなく卒園児の保護者や外部の専門家を招いての座談会を開催し、実体験に基づく具体的な情報の提供や、発達や健康に関する適切な助言により、保護者の心の居場所としての役割も果たせているようです。

今後取り組む課題として福利厚生が挙げられています。就業規則を見直し改定されたので、職員が安心して長く働ける環境が整っていくことでしょう。職員一人ひとりがやりがいや希望をもって働くよう、適宜職員の意見を反映させながらより良い職場環境の構築を期待いたします。

学校関係者評価委員 永田 明子